

かがみ

中央区教育広報誌

No.125

ホームページ

<http://www.city.chuo.lg.jp/kyouikuiinkai>

輪

太鼓に自分たちの魂を込めて



佃中学校「月島太鼓」



雄勝中学校「復興太鼓」



宮城県石巻市立雄勝中の生徒を迎える佃中の生徒たち

魂を込めて

感謝…喜び…希望…夢…
この一打に雄勝中生の怒り…哀しみ…絶望…
「生」の文字をデザイン化
全員で初打ち 進化する輪太鼓

古タイヤを洗う 力を合わせて荷造り用テープをはる
台は用務員さんの手作り「輪」太鼓1号
多くの方からの心にエネルギーをいただいた
前へ 全員で復興太鼓を

雄勝の町は一瞬にして姿を変えた
山の中へ避難 寒く長い不安な夜が続く
19日 19時6分 奇跡だ！ 全員の無事確認
2時46分 この時を境にすべてが一変した
校舎の屋上を津波が超え すべてが廃墟と化す
その日は卒業式だった

地域は壊滅し校舎の外枠だけが
むなしく浮かび上がっている
雄勝の町は一瞬にして姿を変えた
山の中へ避難 寒く長い不安な夜が続く
19日 19時6分 奇跡だ！ 全員の無事確認
2時46分 この時を境にすべてが一変した
校舎の屋上を津波が超え すべてが廃墟と化す
その日は卒業式だった

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、まもなく一年が経過します。
去る9月20日（火）、佃中学校の生徒と、宮城県石巻市立雄勝中学校の生徒が太鼓による交流を行いました。

佃中の月島太鼓部が「雷神」「佃二段返し」で歓迎した後、「たくましく生きよ」とプリントされたTシャツ姿の雄勝中の生徒による「復興太鼓」。その力強い太鼓の響きは、前を見て「生きる」ことを伝える魂のこもったものでした。

（雄勝中作成パワーポイントより抜粋）



11月

日本橋中学校

子どもの頃の経験が未来をつくる

小惑星探査機「はやぶさ」一。数々のトラブルや困難を克服しながら小惑星「イトカワ」よりサンプルを採集し、地球へ持ち帰るという快挙を遂げた。永きにわたった苦難の旅路の最後に、船体を燃やし光跡を描きながら大気圏に再突入する姿に、多くの方が感動したのではないだろうか。

11月29日（火）、このはやぶさプロジェクトメンバーであり、宇宙航空研究開発機構JAXAの名誉教授・技術参事の川泰宣さんの講演（命と心の授業）が日本橋中学校で行われた。通信障害・途絶、イオンエンジンの故障など「はやぶさ四大危機」の内容や、



20億kmの遙かな旅「はやぶさ」の話を聞く

困難に立ち向かうメンバーの姿や思いなどを話してください。子どもたちは「想定外のことが起きても驚かない。それをチームで共有し、どのように対処するかを考えることが大切。」「ルールを守ることが重要だが、時には柔軟に考え結論を出すことで、新しい道が開かれることもある。」そして「大好きなことにこだわり、あきらめずに議論を重ねることで新たなアイデアが生まれる。」など逆境から得た教訓に耳を傾けていた。「最後まであきらめない」と言うことは簡単だが、実行に移すことは容易ではない。実際に物事に粘り強く打ち込まれている方とのふれ合いは、子どもたちにとって「目には見えない心の財産」となるだろう。



お礼の言葉と花束を贈呈する生徒代表



12月

阪本小学校

模擬裁判を通して考える「正義とは」

原告側の主張と被告側の主張、どちらが正しいのか？この模擬裁判を通して子どもたちは、「正しさには人それぞれの“ものさし”があるため、法律を軸にすることでその尺度を確かなものにする」ことを学べたのではないだろうか。

12月9日（金）、阪本小学校で法教育が行われた。6年生の子どもたちが、東京弁護士会 法教育センター運営委員会の弁護士10名の方々にサポートをしていただきながら、模擬裁判を体験した。アイドルグループの写真を無断で出そうとする出版社（被告）と、出版差止めを求めるプロダクション（原告）との裁判という架空ではあるがリアルな設定だ。

まず、手作り弁護士バッジをつけた原告団と被告団、法服をまとった裁判官グループに分かれ、弁護士の方々にアドバイスをいただき、「たくさんの事実から、どの切り口を



原告団の話し合い

中心に考えていくのか」を軸に事実と争点の整理など話し合った。前日から憲法をしっかりと勉強していた子どもたちは、それぞれの意見発表の中で「表現の自由」と「プライバシーの権利」といった法律問題にも弁論を広げ、最終的に裁判官が双方の意見をふまえて判決を言い渡した。

弁護士の方々と直接ふれあうことで、法曹の仕事や裁判のしくみ、法律の重要性を勉強できただけでなく、話し合いの大切さなども実感できる良い体験になった。



模擬裁判のようす

未来に向かって 「たくましく生きよ。」

石巻市立雄勝中学校に赴任して、半年がたちました。派遣当初は避難所生活をしていた生徒も多くいましたが、現在は仮設住宅やアパートを借りたりして、徐々に生活環境はよくなっています。

雄勝中学校は屋上まで津波をかぶり校舎は使用できないため、現在は雄勝の町から約10km離れた高校の一角を間借りして授業を行っています。

今年度から、雄勝中学校は校訓を「たくましく生きよ。」に変えました。震災を乗り越えて、「たくましく」生きる力を身につけようと生徒たちは一生懸命頑張っています。

雄勝中学校には、全国からさらには世界からも多くのご支援をいただきました。生徒たちは、その支援のおかげで普通に授業を受け、普通に部活動に励むことができています。

今年度の総合的な学習の時間では、地域で演奏されている「伊達の黒船太鼓」を全校生徒で取り組みました。古タイヤに梱包用のテープを貼ったものを「雄勝復興『輪』太鼓」と名付けて練習に励みました。この様子はテレビや新聞などでも多く取り上げられました。そして、9月には1・2年生が東京のイベントで太鼓を演奏する機会があり、その際に佃中学校へ立ち寄りしました。佃中学校には月島太鼓部があり、太鼓を通じて交流することができました。生徒たちは月島太鼓の演奏を見て「パチさばきが格好良かった」や「声がよく出ていて迫力があつた」という感想を述べていました。また、11月には東京駅で、全校生徒で太鼓の演奏をしました。多くの方にご覧いただき、感謝の気持ちと雄勝の頑張りを太鼓を通して伝えることができました。



現在、3年生は自分の進路実現に向けて一生懸命努力しています。1・2年生も普段の授業や部活動を頑張っています。その点では雄勝の子どもも中央区の子どもも一緒です。一歩ずつ「たくましく生きて」ってほしいと思います。

佃中学校 湯浅浩先生

平成23年5月9日から平成24年3月31日まで、中央区から2名の先生が東日本大震災の被災地の学校を支援するため、宮城県石巻市に派遣されています。震災後、苦難を乗り越え前進している子どもたちの輝く姿や学校生活等について、先生方からメッセージが届きました。

被災地から中央区へ 中央区から被災地へ

石巻の空は今日も青く 澄み渡っています

石巻市立前谷地小学校に赴任して1週間後、震災から約2ヶ月後の5月14日、石巻の被害の大きかった地域に連れて行っていました。

ある地点に来ると一変する光景に言葉も出ませんでした。田んぼには、形を変えて転がる車を数えるのが大変なほど...骨組みだけが残っている家やその家すらない土台だけの荒れ地、ビルも転がっていました。何もかもが、映画の世界のような感じで、出てくる声は「え～!」「うそ!」のみでした。

前谷地小学校には、被災した児童も転入してきました。津波で家族を失った子や自分自身が流された子など、私には信じられないような体験した子どもたちです。最初は何を話しかけたらよいのか迷いました。でも、その子たちは学校ではいつも笑顔でした。朝から「先生～!」と元気に声をかけてくれるその子どもたちに私が元気をもらいました。それと同時に、これからも、どの子も笑顔で歩んでいけるよう私もがんばらなければと強く思いました。

11月に、中央区の晴海トリトンの方々から、スイセンの球根をいただきました。スイセンは復興のシンボルだそうです。この球根は月島第三小学校でも植えられました。春にはスイセンの花が前谷地小学校の花壇でも、月島第三小学校の花壇でもきれいに咲くことでしょう。お互いの児童がその花を見て何かを感じることができれば、大きな大きな交流の花が咲くと信じます。

青く澄み渡った石巻の空のもと、校庭からは子どもたちの元気な声が聞こえてきます。



久松小学校 水沢修一先生

「おでんせ」とは岩手県の方言で「いらつしやい」という意味です。1月12日(木)、岩手県内の学校の先生方が日本橋小学校・幼稚園を訪れました。これは、「いわての復興教育」支援として、国や学校教育の有識者で構成するおでんせプロジェクト実行委員会が企画したものです。

永井校園長先生による学校概要の説明を受けた後、校園内の各種施設や礼法室で地域の方が子どもたちに茶道を教えるなど、見学しました。



先生おでんせプロジェクト

日本橋小学校・幼稚園

ている子どもたちで観客を魅了しながら、「スイス軍の行進」「エル・クンバンチエロ」「オーバーザレインボー」「ミッシェンインボツシブル」等を演奏子どもたちが心を一つにしたマーチングに、会場は大きな拍手で包まれました。



花育

月島第三小学校

10月17日(月)、株式会社晴海コーポレーションとこどもみらい花育協会の方々のご協力のもと、1年生が花を通じた学び体験をしました。

晴海トリトンスクエアに咲く700種類のうち、ペゴニア、ダリアなど4種類の色や形の異なる球根の植物についての説明を聞きながらお花クルージング。その後、スイセンの球根65個をいただき、校庭の花壇に植えました。この球根は、宮城県石巻市立前谷地小学校にも寄贈されました。

球根を植えた後、担任の先生から東北の今の状況や前谷地小のことが説明され、子どもたちはメッセージカードを送るため、自分たちの似顔絵を丁寧に描きました。



シャベルで丁寧に球根を植えました

築地チャリティーコンサート

京橋築地小学校

10月29日(土)、築地スマイル実行委員会主催で、東日本大震災の被害を受けた方々をはじめ、日本中のすべての人々の笑顔を取り戻すことを目的としたチャリティーイベントが築地本願寺にて開催され、京橋築地小学校6年生が参加しました。

京橋築地小学校では、毎年運動会で6年生全員によるマーチングパレードを披露しています。当日も息の合ったカラーガード(虹の旗を持つ

図形の並び方や組み合わせをグループで作業しながら調べる子どもたちに、なぜそう考えるのかを聞く椎名先生。



行は、道に迷うなどトラブルがあっても細かいことまで覚えているものです。授業も、まずすぐにゴールに向かわせることも時に

椎名先生

自分で考えさせる授業

活用することを勧めます。その教材を使って、どのように授業を行うかをシミュレーションすることで授業力の向上に繋がると思います。

「並べ方と組み合わせ方」の授業では、落ちや重なりがないように、条件に従って組み合わせを調べるのがねらいでした。子どもたちに目標を達成させるためのポイントとしては、「。を調べて考えましよう」と過程を先に言うてしまつたのではなく、子ども自身の思考を上昇気流に乗せられるような質問を投げかけ、調べ方から考えさせることも大切だと考えています。

例えば、パッケージ旅行でガイドさんに連れて行ってもらつた名所は、その時は「素晴らしいなあ」と思つても、数年経つと記憶が薄れてしまつことがあります。反対に、自分で計画した旅

行は、道に迷うなどトラブルがあっても

細かいことまで覚えているものです。

授業も、まずすぐにゴールに向かわせることも時に

わかる！できる！ 子どもが輝く授業の追究 「メンタティーチャー制度」始動



今年度からスタートした中央区独自の「メンタティーチャー制度」。この制度は、教育現場で優れた指導技術と高い専門知識をもった教員が、所属校の垣根を超え、教員研修会等で指導・助言などを行い、教員の指導力の一層の向上を図る制度です。

9月10日（土）、この制度のモデルとなった秋田県の「教育専門監」湯上市立天王小学校の椎名美穂子先生をお招きし、有馬小学校体育館で、中央区教員特別研修会が開催されました。区内外から参加した187名の教員が注目する中、有馬小の6年の児童に、椎名先生（算数）と有馬小学校 川島幹雄先生（国語）が公開授業を行いました。

その後、泰明小学校の片桐淑子先生と有馬小学校の川島先生の2名に本区初のメンタティーチャーとして認定証が授与されました。また、3名の先生に加えて、コーディネーターとして国立教育政策研究所教育政策・評価研究部長 葉養正明氏を、パネリストとして社会法人日本教育会監事 安藤駿英氏、東京学芸大学名誉教授 児島邦宏氏をお迎えし、「よい授業づくりのポイントを追及する」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

は必要ですが、物事を自主的に解決する力は苦勞してこそ身に付くものだと思ひます。

「間違い」は大切な教材

私は、誤答を学んだことから生ずるひとつの姿と捉えています。誤答を出しても、子どもたちがそれを自ら修正し、解決できるようにしなくてはなりません。そのために子どもたちには「間違いから素直に学ぶ」ことを指導しています。友人が間違えたのを見て、他人事と思わずに、いつか自分がするかもしれない間違いを友達が先取りしてくれたと思える子どもを育てたいと思います。

教師には限られた時間を充実させ、集団学習の意義を、現状にそつた学習形態のなかで舵取りしていく役目があります。形にとらわれず子どもたちの実態を見ながら学習形態を作ることが大切にしていきたいです。

教材分析の大切さ

授業の設計は、教師の思いだけでは成立しません。私の場合は全国学力・学習状況調査の結果分析や、6つの異なる教科書を比較分析し指導の手だてを考えます。

また、授業中に気づいたことなど、毎回数行程度記録しているので、過去の授業日記から学ぶこともあります。

よりよい授業に向けての考え方
（パネルディスカッションから）

川島先生

「対話」を重ねて「学び」を深める

教材の「平和のとりでを築く」は、原爆ドームが世界遺産に登録されたことから想起した平和に対する筆者の願いや祈りの強い気持ちが生現されたとても素晴らしい作品です。そのため、子どもたちが「戦争はいけない」「核兵器はあってはならない」という、筆者の想いにただ単に同調した意見でまとまることを心配しました。

しかし、学級全員の意見や感想を限られた授業時間内にすべて発表させるのは困難です。高学年になるとどうしても「あの人が発言するから、私は聞いていれば良い。」という感覚も生じてきます。

ですから、一人ひとりの発言を重んじつつ、主体的に授業に参加させる手段として、子ども同士が1対1で行つ「対話」の時間を大切にしました。互いの意見や理由を丁寧に伝え合うことで、人間関係を構築しつつ学びを深めることが出来るからです。

常に指導方法を工夫

序論、結論の関係を把握させた上で、本論の展開について学ばせると理解し

片桐先生

子どもの疑問や学びの気持ちを呼び起こす

私は、子どもたちの「えー。なんでー。調べたいー」という思いを大切にしています。

「モンシロチョウの幼虫が緑色なのは知っている？」「知っているよ。緑の葉っぱを食べるから」「でもサナギは茶色いよね？」「それは敵に姿を見つけれないよう保護色になるんだよ」「なるほどね。幼虫はサナギになるときに色を見分けているというところ？」「ん？・・・」「ここでやっと子どもたちは疑問を抱きます。

これは理科の授業の「コマ」ですが、このように話のテンポとゆきぶりを通して、子どもたちに疑問や学びへの積極的な気持ちを呼び起こすようにしています。

授業のルールの徹底化

授業で大切にしているのは「見取る、認める、伸ばす、鍛える、考えさせる」ことです。子どもたちが考え抜いた結果や発言は決して否定しません。教師は教える技術力をもっています。心を扱う専門家でもあります。発言しなかった子、出来なかった子への目配りなどを忘れずに、子どもたちの行動だけでなく心の動きや変化にも気づくことが必要です。



原爆ドームや戦争の知らない子どもたちに、筆者の考えを踏まえたうえで「平和」への考えを引き出す川島先生。

やすいようです。配布資料は、全文を一枚の印刷物に掲載し見渡すことで、段落同士の関係を伝えやすくします。これはページをめくる動作を省略させることで、意識を途切れさせない効果もあります。

授業中は子どもたちが学習内容についてきているかを常に考え、子どもたちの気になったようすや発言は、カルテにして記録をとるようにし、授業のようすをスケッチしておくなど、自らの目を養う努力をしています。

また、子どもたちの発言を教師の都合の良いように結論づけていないか、私の発想に陥っていないかと省みるようにしています。

授業力向上のためのアドバイス

他の先生の授業を見学させていただくと良いでしょう。ただし、教える子どもたちも、先生の人間性や性格も異なるのですから、そのままでは役にたちません。授業を見学しながら、自分だったらどうするかと考えることが勉強になると思います。

また、自分が楽しくなるような教材研究を行い、そして惚れ込んでそれを

また、子どものふざけたり馬鹿にしたりする行動については、厳しくしっかりと指導していきます。授業の規律ルールの徹底はとても大切です。

良い授業はネットワークでつくる

私は自分用に教科書を購入して、必要と思われる部分にはマーカーしています。資料づくりのめり込む時間を割くことも大切なことです。恥ずかしいのですが自身の授業を録音して聞くことも勉強になります。

お勧めしたいのは、いろいろな分野の方と積極的に交流を心掛け名刺交換をしておくことです。教材に困った時など、そのネットワークから教わったり助けてもらったりすることがあります。また、さまざまな教材、新聞、書籍に関心を持ち、多様な考え方を吸収し、物の見方を広げておくことも重要です。

さらに、先輩の授業は積極的に参観し、その技術を学びながら、授業方法を深めてください。そして自分に厳しく言うてくれる人を大切にしてください。

今回、片桐先生は公開授業を行いませんでしたが、認定式後のパネルディスカッションで授業への熱い思いを語っていただきました。



全国トップレベルの学力県である、秋田を訪ねて



平成23年11月上旬に、教育委員が小学校長会会長の小島敏光先生（城東小学校長）と中学校長会会長の太田達郎先生（銀座中学校長）とともに、秋田県潟上市内の小学校を視察しました。

この視察は、メンタティーチャー（本誌P4・5に掲載）に認定された片桐淑子先生（泰明小）と川島幹雄先生（有馬小）の同市立小学校での研修時期に合わせて実施されたものです。

秋田県潟上市での
授業を参観して

城東小学校長 小島敏光

11月1日から2日にかけて教育委員視察に同行させていただき、秋田県潟上市を訪れました。潟上市では天王小学校と大久保小学校の2校で、教育専門監の授業を参観しました。

そこでは、学級全体で「学ぼう」としている雰囲気がいひひしと伝わってきました。集中して取り組もうとする姿勢がどの子どもにもみられ、授業に対して積極的に参画していました。教



▲中央区教育委員および先生方と、潟上市教育委員、天王小学校の先生方



▲中央区教育委員および先生方と、潟上市教育委員、大久保小学校の先生方

◀「東京から『魔法の時計』を持ってきました。赤い針が12時を指している時計の裏側は青い針が3時を指している不思議な時計。では、赤い針を2時になるよう時計を回した時、裏の青い針は何時を指しているでしょう？」と言って子どもたち全員に手作り時計を配った片桐先生。実際に時計を裏返して「エー！なんで？」の声。わくわくする授業展開に、子どもたちは2つの数量の関係を楽しく学んでいた。



▲比喩表現や擬態語・擬声語など、独特の表現が散りばめられている宮沢賢治の作品「やまなし」。多数の生き物が登場する中で、「かにの子どもら」の視点に絞って子どもたちにイメージ図（関係図）を描かせつつ、順番に整理していく川島先生。教室内を回り、対話しながら子どもの想像力を引き出していた。

◀大久保小学校での協議会のようす
教育委員の方々からは、「先生同士がお互いのスタイルを尊重しながら勉強し合っている姿を見て、メンタティーチャー制度を構築したことにより得られた大きな財産だと思いました」等の感想が述べられたほか、「教育専門監に認定されて思ったことと、今実際に続けている中で感じていることに違いはありますか？」「過去を振り返り、指導方法が適切だったと感じることはどんなことですか？」など、メンタティーチャー制度の定着を見据えた質問や意見が数多く出されました。また、中央区と潟上市の家庭学習の状況等についても情報交換が行われるなど、有意義な時間となりました。

▶天王小児童の算数ノート。黒板の内容は鉛筆で、自分で考えた内容は赤ペンで記入し、思考工程をノートに残す。考え方が違っていても、次につながる「大事な間違い」なのだ。



▲教育専門監 京野先生の授業



▲教育専門監 椎名先生の授業



対象にした授業でしたが、これまでの経験やもっているよさを発揮して授業を進めていました。その後の協議会では、ねらいに基づいた教材の選択や授業の展開等メンタティーチャーとしての学びを深めることができました。これからは秋田県との交流を積極的に進め、教育専門監制度のよいところを取り入れながらメンタティーチャーの資質・能力を高めていくことを望んでいます。さらに、メンタティーチャーを活用した研修を進め、中央区における教員の力量を向上させてほしいと願っています。中央区の子どもたちをよりよく伸ばしていくために、メンタティーチャーのさらなる活躍に期待しています。

秋田県教育専門監にかかわる
訪問について

銀座中学校長 太田達郎

秋田県は、教科指導に卓越した力のある教師を教育専門監として認定し、自分の学校だけでなく近隣の学校で授業を行うとともに、他の教師への指導や相談を行っています。一人でも多くの子どもたちに質の高い授業を提供し、学力を向上させる取組みです。

訪問した当日は、教育専門監と本区のメンタティーチャーによる授業を参観しました。子どもたちの思考を深める分りやすい展開の授業であり、適度の緊張感が保たれた学級の中で学習に集中していた子どもたちの姿が印象

的でした。「一人ひとりの子どもたちの学びを踏まえた丁寧な教材研究」、「思考を深める端的かつ明快な言葉かけ」、「分りやすい整理された意図的な板書」等、授業成立の基盤がしっかりとありました。

さらに、笑顔で発言を認め発展させることで、子どものやる気を高める一方、「小学校6年生は同時に2つのタスクができなければいけない。書きながら答えなさい！」など、時には厳しさも感じさせる表情と言葉かけを行うなど、「子どもたちの力を必ず伸ばす」という自信と子どもに対する深い愛情が感じられました。

その後の協議会では、教育専門監から「それでも成功することより、失敗する方が多いです」という話がありました。よりよい授業のために、現状に満足することなく研究と実践を積み重ね、自らを成長させようとする決意が伝わってきました。

中学校では来年度から新学習指導要領が全面实施となり、新しいねらいに即した授業改善が求められています。中央区教育委員会の「メンタティーチャー制度」は、授業改善のための研鑽の充実と授業力の向上を目指すものです。質の高い授業と地域に即した創意工夫ある教育活動を通して、これからの持続可能な社会の構築に貢献する資質と能力を身に付けた、子どもたちが中央区から育つことを願っています。